

会 議 結 果 報 告 書

令和7年4月30日

会議の名称	令和6年度 第2回 舞鶴市図書館協議会	
種別	☒ 附 属 機 関 ☐ 懇 話 会 等	
開催日時	令和7年3月18日（火） 15時30分 ～ 17時	
開催場所	舞鶴市役所 中会議室	
出席者	舞鶴市図書館協議会委員 8名 事務局 7名	
議題	・ 令和6年度の事業報告について ・ 令和7年度の予算及び事業計画について ・ 舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館再編の進捗状況について	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	5 名	
審議結果 及び 主な意見等	会議録（抄録）のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 図書館課 TEL （ 0 7 7 3 ） 6 8 - 9 2 2 1
-----	--

令和6年度 第2回舞鶴市図書館協議会 出席者名簿

所 属	氏 名	役 職
舞鶴市図書館協議会	池内 紀代子	
	大田 恵子	
	川嶋 公貴	
	櫻井 雅子	
	常世田 良	副会長
	中川 幾郎	会長
	西村 説子	
	村川 広美	
舞鶴市 生涯学習部 図書館課	福田 伸一	生涯学習部長
	三方 理江	生涯学習部次長
	山本 達也	図書館課長
	玉川 佳美	図書館再編推進係長
	西躰 朋子	東図書館長兼児童博物館長
	岡山 理恵	西図書館長
	山口 麻夕	西図書館主事

欠席

所 属	氏 名	役 職
舞鶴市図書館協議会	畠中 好野	
	福本 浩介	

令和6年度 第2回舞鶴市図書館協議会 記録(抄録)

日時: 令和7年3月18日(火)

午後15時30分～17時

会場: 舞鶴市役所 中会議室

<1. 議事>

(1) 開会

(2) 図書館協議会 議事

議題① 令和6年度の事業報告について

議題② 令和7年度の予算及び事業計画について

議題③ 図書館基本計画に基づく図書館再編の進捗状況について

(3) その他

(4) 閉会

<2. 会議録>

(1) 開会 (15時30分)

(2) 図書館協議会 議事

議題①～③について事務局から説明

* 質問や意見は以下のとおり

①[議題] 令和6年度の事業報告について

・この協議会が発足したときには、このような動きは全くなかったと思う。1年1年、職員、司書の皆さんがすごく活発に動いており、中央図書館への準備が一步一步進んでいると感じている。

・分館とのつながりができているのは、素晴らしいと思う。タブレット未使用の学校があるということだが、その理由は何か。

→ 事務局より

電子図書館利用のためのIDとパスワードは学校を通じて配布しており、利用については、学校に任せている。そのため、学校の事情によって、利用状況に差が出ているのが現状である。

・色々な取り組みを少しずつ着実に進められているような印象を受けた。その中でも情報発信に力を入れられるということで、非常に楽しみにしている。図書館の内容や利用する楽しさなどが、多くの市民の方に伝わればいいと思う。その中のInstagramは「公民館公式」と書いてあるが、どういう捉え方をしたらよいか。

→ 事務局より

現在は、図書館公式のInstagramではなく、公民館公式のInstagramで、図書館や郷土資料館などの文化施設からも、文化情報を全て出していくという形で進めている。

・ぜひ図書館公式Instagramを開設し、力強く発信していただきたい。

・図書館のことは日々留意しているが、こんなにたくさんイベントをされていたのかと驚きである。もっとアピールをして、その経過や結果、どんな内容だったのかなど、中央図書館に向けての熱量やパワーみたいなものをもっと出していないともったいないと感じた。

・当初から大切にされてきた図書館の取り組みを大事にしつつ、目指している図書館を見据えて、各団体との連携の強化が進んでいることをうれしく思う。情報発信に期待する。

・この図書館協議会設置当初の印象は、図書館は来館者に対して受け身で、利用促進のための方向性などについて悩んでおられたように思う。今はこちらから出かけていくなど、同じ組織とは思えない活発な活動をされている。今後ますますの発展を願う。

・4,000㎡近い、かなり大きな中央図書館の開館準備には、準備室のような新しい組織を作る場合が多い。舞鶴の場合は、その開館準備もしながら日常の業務をこなしていて、かつ、以前より日常業務もいろいろ工夫されて、現場の職員の業務量が増えているという、非常に大変な状況ではないか。

②[議題] 令和7年度の予算及び事業計画について

・以前、年間の本の購入費を質問させてもらったときに、400万円とおっしゃったことがあった。令和7年度は4,100万円とすごく大きな金額になって、認めていただいたということでとてもうれしく思う。これから再編に向けて、さらにプラスになるようにお願いしたいと思う。

・ワークショップに参加していると、みんな盛り上がって楽しかったが、間が空いてしまうと、どうしても熱が冷めてしまうので、ぜひ続けて開催していただきたい。

・開館準備室が未設置で、これだけたくさんの取り組みをされる中で、新しい図書館を立ち上げるのにもすごいパワーがいると思う。準備室の設置がなぜできないのか、可能であれば知っておきたい。

→ 事務局より

市役所全体として人材不足が大きな課題となっている。その中で、現在の体制でしっかりと組織として頑張っている。今後、まだ未定だが、整理しながら、体制強化に向けて取り組んでいきたい。

・人手不足、時間がない中でやっていくことには限界があると思うので、知恵を絞っていかなくてはいけないと思う。ワークショップに参加してみて、いろんなことを手伝いたいと言っている方がとてもたくさんおられた。機運を盛り上げていくことにもなるし、舞鶴市民の「手伝いたい」という力を取り込むことも大事ではないかと思った。

・SNSの発信について、図書館だけが発信するのではなく、例えば雑誌スポンサーに協力してもらうことも、かなり効果があるのではないか。

・FacebookやInstagramでの情報発信については、舞鶴市の取り組みとして、専門の部署との連携強化を図っていくというのも一つの手法ではないか。

・電子図書館については、小学校教育研究会や中学校教育研究会とも連携して、活用が進められるとよい。

・研修の実施は大事だと思う。今後、この協議会で、研修内容や研修を活かした取り組みの報告を期待する。私たちの勉強にもなるし、目指そうとしている将来像が共有できるとうれしい。

・この事業計画全て素晴らしいと思う。予算の充足度は分かりかねるが、もし不足するのであれば、スポンサーを見つけるなどの工夫も必要ではないか。

・図書館司書研修は、一番大切ではないかなと思う。頑張っていたきたい。

・図書購入費は、一番少なかった年度からすると約10倍になっている。2万冊ぐらい買えると思うのだが、ものすごい数・分量となる。それをどこに置くかというのは大きな問題だ。古くなっている本を廃棄することも考えられるが、廃棄する本を選ぶのは、買う本を選ぶより難しくて時間がかかる。その事務量も増えてくる。取っておくんだとしたら場所を確保する工夫も必要になる。本のデータや装備にかかるコストも増えることを踏まえておきたい。

・住民自治による、読書振興活動を担っていただける団体の把握はできているか？

→ 事務局より

子どものために読み聞かせや人形劇をお世話になっている団体が2つある。

・この報告の中のおはなし会のところに、「ボランティアと協働」と書いてあるが、住民自治の担い手なので、「サポーター」や「市民コーディネーター」といった名前に変えてはどうか。そして、市民コーディネーター制度の確立に取り組んではどうか。新館オープンの際に、いいスタートが切れると思う。また、それによって、図書館の人件費にかかるコストプッシュが軽くなっていくはずで、職員の労働設計にも関わると思う。

・選書について、図書館は、社会の困っている課題とか、必要性に応じた情報が欲しいという人たちに対する情報センター機能を果たしている。どんな課題に太刀打ちすべきかということを図書館と司書が毎年毎年点検し、洗い出していくソーシャルリサーチャーであるべきだ。

③[議題]舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館再編の取組状況について

・着々と進んでいると思う。分館について、特に東地区のまなびあむと商工観光センターは、サポーターの方にお世話になって、色々なイベントをするのがいいと思う。調理室や空いている会議室も使えると思うので、すごく楽しいかなとイメージして聞いた。

・分館のイメージについて、それぞれの建物の特色や利用者の様子を活かした具体的な案が練られていると思った。

・東図書館がなくなると、子どもたちの居場所が心配になる。まなびあむや商工観光センターに歩いて行ける子ばかりではなく、自転車で行くことも考えると、まなびあむは自転車を置く場所がないことと、車が出入りしているところを横断して、建物に入るパーキングの形になっているので、安全面が懸念される。また、狭くはないのか、どれだけ本が置けるのかと感じた。

・今のところ、南分館や中分館、加佐分館は書庫的なイメージが強い。その地域の人に寄り添った分館として機能するかどうか考えている。中央図書館だけでなく分館もあわせた舞鶴市全体が、本に触れることで課題が解決できる、そういった場所になれるように、全体的に面と捉えて、図書館サービス網を構築していただきたい。

・まなびあむの空間活用イメージを詳しく聞きたい。そんなに広くはなく、どれだけの本が置けるのか不安になった。

→ 事務局より

本を置く場所と、施設の利用を待っておられる方などが、ゆったり座れるイメージを活かして、新聞や雑誌を置くスペースを考えている。既に図書室として活用されているところには新しい本、新鮮な本に入れ替えていきたいと思っている。

・東地区の分館の内容が、上手に活用されており、いいなと思った。商工観光センターに図書館が入って、いろいろな事業者が調べ物をされるのもいいし、面接に来られた方に職業案内のような事があればいいと思った。以前、視察に行った図書館にも、そのようなスペースがいろんなところにあった。ハローワークまで行かなくても、求人情報なども手に入れられるようになったらいいのではないかとイメージした。

・今回の計画は市内全域にサービスを届けることであり、まさに蛇口と水道管の関係である。毎年、全体で図書館事業がものすごく盛り上がって、皆さんが、図書館は役に立つ、図書館はなくてはならないものだということになると、新しく分館をつくらうというようになっていくと思うので、市民の方が使っていただくのが、重要なことだと思う。

・他の自治体でのワークショップに比べて、舞鶴の場合は年齢層が広く、男女比もほぼ均等で、参加者のバランスがすごくいい。ワークショップも回を重ねてきたので、非常に突っ込んだ議論がされ、非常に建設的だったと思う。

・中央図書館の内部イメージをみると、市民交流エリア、市民活躍エリア、市民活躍ルームというようにたくさん「市民」が出てくる。これは図書館をサポートする、あるいは住民自治

の活躍の場として、議論したり、他の人たちとも交流していく、学校図書館司書とも議論し合っていくというような場所が設けられていると理解した。しかも、その様子が外から見えるようになっている。住民自治と団体自治である行政との両輪で成り立つ図書館をイメージしていて、分館は、住民自治の拠点になりやすいように地域に持っていきっていると捉えるべきだと受け止めた。

・新中央図書館のイメージ図の中にあるような、「お店のメニューをもっと充実させたいんだけど」とか、「町内会の規約を見直したり、参考になる本は？」といった活動ができる図書館を目指したいと思う。それがまちづくりにつながる。図書館員がそのような悩みに対して情報を提供するサービスをやるということが大事なポイントではないか。

・図書館は暮らしの研究所だ。そういう点で、司書に必要な資質はソーシャルリサーチャーだと思う。芸術や文化における基本的人権の保障装置であるべきであって、病気になったら図書館に行けないとか、時間がなかったら図書館に行けないとか、それでは困る。

そのために、自動車図書館や分館も整えるのではないか。目指す図書館は、ゆったりと余暇に読書を楽しむためだけではないというところを、住民に説明できる体制を整えてほしいと思う。

(3) その他 連絡事項

(4) 閉会（17時）